

令和8年度

# 大阪市立大隅西小学校 運営に関する計画



令和8年4月

## 大阪市立大隅西小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

本校は「全ての子どもが安心して学べる教育の実践」を教育目標とし、育てたい子ども像「心豊かな子」「思いやりのある子」「挑戦できる子」の育成をめざして、大阪市教育振興基本計画の基本理念である「子どもたちの最善の利益」と「持続可能な社会の創り手の育成」を念頭に、最重要目標を推進する。令和7年度までの「チーム担任制」によるきめ細かな支援を基盤としつつ、令和8年度からは教育DXを「学びのツール」として質的に向上させ、児童一人ひとりが「自分らしく未来を切り拓く力」を育むことをめざす。

**現状と課題**

〈学校規模の推移と組織体制の整備について〉

ここ数年、児童数が少しずつ減少しており、令和8年度は各学年1学級、特別支援学級6学級の計12学級となった。この小規模化に対応し、各学年を担当1人だけで指導するのではなく、低・中・高学年および特別支援の各ブロックで「チーム担任制」を導入した。複数名の教員が全児童と関わることで、きめ細かに支援できる体制を整えており、特別支援担当教員と学年担当との密な連携も強化されている。令和8年度以降も、この「チーム担任制」を核としたしなやかな組織運営を継続し、教育の質の維持・向上を図っていく。

「チーム担任制」により複数名で児童を見守る体制を構築したことで、いじめの認知や不登校児童への対応が組織化されている。令和7年度の最終評価では、「いじめは絶対にしてはいけない」と回答した児童は80.5% (R4: 70.6%) と大幅に向上したが、目標値(95%)には達していない。また、不登校児童の在籍比率は1.8% (R7) であり、改善傾向にある児童も50%に留まっている。大阪市の新計画では「学校に行くのが楽しい」と回答する割合の目標が87.0%に設定された。児童が「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(市R7見込値: 74.6%)」という安心感をさらに高め、重大事案だけでなく日常の小さな変化を全教職員で共有し、未然防止・早期解消につなげる体制の更なる強化が課題である。

〈学力・体力について〉

学力面については、大阪市市学力経年調査において対全国比1.00前後を維持しており、基礎学力は定着しつつある。しかし、「学級の友達との話し合いで考えを深めたり気付いたりできている」と回答した児童は31.6%と低く、対話的な学びの質的向上に課題がある。また、課題解決に「自分から取り組んでいる」児童は67.3%であり、学習意欲の更なる喚起が必要である。体力面では、合計点の対全国比が回復傾向にあるが、運動委員会の活動等を通じ、より多くの児童が「運動が好き」と実感し、習慣化することが求められる。今後は、新計画で導入される「非認知能力調査」も活用し、目標に向かいねばり強く取り組む力や自己肯定感をエビデンスに基づいて育成することが課題である。

〈教育DXについて〉

1人1台学習者用端末の日常活用は定着したが、「学習者用端末を使って自分で学習することができる」と回答した児童は82%であり、目標(85%)を下回った。端末を単なる「使用」から「自律的な学びのツール」として使いこなす実感を高める授業改善が不可欠である。働き方改革については、平均時間外勤務時間が月23時間34分(R6実績)であり、新計画目標の「20時間以下」への削減が求められている。年次有給休暇の取得率は向上(74%)しているが、「ゆとりの日(定時退勤日)」の達成率は67%に留まっている。チーム担任制を活かした業務分担の深化と計画的な校務運営により、教職員のウェルビーイングを向上させることが急務である。

(1) 児童数と学級数（特別支援学級を含む）

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
児童数	294	286	257	237	233	204	200	163	166
学級数	15	15	14	12	12	12	12	11	12

(2) 学校選択制実施状況

年度	通学区域内就学予定者数A	他校区への転出による減B	他校区からの転入による増C	増減 D = B + C	転出者の割合 E = B ÷ A	増減の割合 F = D ÷ A
H30	31	-2	1	-1	-6.5	-3.2
R1	45	-2	3	1	-4.4	2.2
R2	30	-3	3	0	-10	0
R3	38	-8	6	-2	-21.1	-5.3
R4	35	-14	1	-13	-40	-37.1
R5	22	-7	10	3	-31	13
R6	21	-7	5	-2	-33	-9
R7	23	-9	11	-2	-39	-8
R8	33	-14	3	-11	-42	-33

(3) 市小学校学力経年調査より

令和4年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
市平均正答率の合計	275.9	265.3	343.7	349.5
校内平均正答率の合計	281.2	276.9	315.4	364.7
<b>標準化得点</b>	<b>100.7</b>	<b>101.6</b>	<b>98.6</b>	<b>101.9</b>

令和5年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
市平均正答率の合計	255.3	258.4	339	344.2
校内平均正答率の合計	244.3	289.9	342.1	291
<b>標準化得点</b>	<b>98.6</b>	<b>104.2</b>	<b>100.4</b>	<b>93.6</b>

令和6年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
市平均正答率の合計	260.4	259.9	349.2	330.1
校内平均正答率の合計	289.5	256.1	331.4	284.4
<b>標準化得点</b>	<b>103.7</b>	<b>99.5</b>	<b>97.9</b>	<b>94.7</b>

令和7年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
市平均正答率の合計	271.7	266.4	347.9	354.8
校内平均正答率の合計	251.2	284.2	307.9	335.6
<b>標準化得点</b>	<b>97.5</b>	<b>102.3</b>	<b>95.3</b>	<b>97.7</b>

令和8年度 4教科合計	3年生	4年生	5年生	6年生
市平均正答率の合計				
校内平均正答率の合計				
<b>標準化得点 1:25</b>				

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.0%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童を 80.0%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童を 88.0%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童を 85.0%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童を 90.0%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.0%以上にする。
- ② 「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.0%以上にする（R7実績 82.7%からの向上）。
- ② 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.0%以上にする（市R7見込値 74.6%を上回る設定）。
- ③ 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を81.0%以上にする（R7実績 79.5%からの向上）。

#### 学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.0%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.0%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を81.0%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70.0%以上にする（R7実績 67.3%からの向上）。
- ② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.0%以上にする（R7実績 85.6%からの向上）。

#### 学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68.0%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における国語・算数の平均正答率の対全国比を、前年度より1ポイント以上向上させる。
- ③ 全国体力・運動能力調査における体力合計点の対全国比を0.98以上にする（R7実績 男子0.93・女子0.98）。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を55%以上にする（R7実績 53.6%からの向上）。
- ② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を22時間以下にする（R6実績 23時間34分からの削減）。

#### 学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を55%以上にする。
- ② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を22時間以下にする。
- ③ 年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を85.0%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

学校運営の中期目標および本年度の総括について

## 大阪市立大隅西小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.0%以上にする(R7実績82.7%からの向上)。</p> <p>②小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.0%以上にする(市R7見込値74.6%を上回る設定)。</p> <p>③小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を81.0%以上にする(R7実績79.5%からの向上)。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.0%以上にする。</p> <p>②小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.0%以上にする。</p> <p>③小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を81.0%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」を徹底し、いじめアンケート(端末活用)による早期発見と、重大事案だけでなく日常の「小さな変化」を共有する体制を構築する。</p> <p>児童情報連絡会を月1回実施し、全教職員で全児童の様子を継続共有する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>①いじめアンケートを年3回実施し、認知後1週間以内に対応を開始する。</p> <p>②児童情報連絡会を月1回実施し、全教職員で全児童の様子を継続共有する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「きまりを守ろう週間」を実施し、きまりが何のためにあるのかや、きまりを守ることの大切さについて考え行動できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>①「きまりを守ろう週間」を年に2回以上実施する。</p> <p>②校内アンケートにおける「きまりを守っていますか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】  登下校時の指導や児童会でのあいさつ運動を実施し、あいさつをすることの大切さについて考え、場に応じたあいさつができるように取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>① 「あいさつ運動」を年に2回以上実施する。</p> <p>② 校内アンケートにおける「あいさつができていますか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】</p> <p>【取組内容②】</p> <p>【取組内容③】</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【取組内容①】</p> <p>【取組内容②】</p> <p>【取組内容③】</p>	

## 大阪市立大隅西小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>① 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68.0%以上にする(R7実績67.3%からの向上)。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.0%以上にする(R7実績85.6%からの向上)。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>① 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68.0%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語・算数の平均正答率の対全国比を、前年度より1ポイント以上向上させる。</p> <p>③ 全国体力・運動能力調査における体力合計点の対全国比を0.98以上にする(R7実績男子0.93・女子0.98)。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上をめざし、校内研修(メンター研修を含む)を企画し、計画的に実施する。</li> <li>・教員の授業力向上をめざし、校内研究授業を9月～1月に月1回以上実施する。</li> <li>・教員それぞれの強みを生かし、教員の「1人1研修」を実施する。</li> </ul> <p>指標</p> <p>校内アンケートにおける「音楽の授業は楽しいですか」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かけあし週間」や「なわとび週間」などを実施し、学習カードを活用することで、児童の学習意欲を高められるようにする。</li> </ul> <p>指標</p> <p>校内アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。(R7; 85.6%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>健康教育・食育を推進し、望ましい食生活や健康的な生活習慣を心がけられるよう</p>	

にする。	
<p>指標</p> <p>① 「手洗いがんばり週間」を実施し、「達成できた」とする児童の前期と後期の年2回分総合平均を92%以上にする。</p> <p>② 毎日の給食指導において、児童自らが食べられる量を調整できるよう促し、校内アンケートの「苦手な食べ物がでたときにどうしますか」の項目において「すべて食べる」「へらして食べる」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】</p> <p>【取組内容②】</p> <p>【取組内容③】</p>	
次年度への改善点	
<p>【取組内容①】</p> <p>【取組内容②】</p> <p>【取組内容③】</p>	

## 大阪市立大隅西小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を55%以上にする (R7実績 53.6%からの向上)。</p> <p>②教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を22時間以下にする (R6実績 23時間34分からの削減)。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を55%以上にする。</p> <p>②教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を22時間以下にする。</p> <p>③年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を85.0%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>学習者用端末を「文房具」のように扱う習慣を定着させるようにし、全学級で日常的な活用を推進する。</p> <p>指標</p> <p>① 学習者用端末利用率 (月平均) を年間79%以上にする。</p> <p>② 指導者が授業におけるデジタル教材の日常活用を全学級で実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「チーム担任制」による業務分担を深化させ、時間外勤務の削減と教職員のワークライフバランスを確保する。</p> <p>指標</p> <p>①「ゆとりの日 (定時退勤日)」における17時30分までの退勤率を85%以上にする。</p> <p>② チーム学年での校務分掌や授業準備の分業化に関する協議を月1回実施する。</p> <p>③学年チームで予定を調整し、平日に交代で休暇を取れるようにする (年間3回程度を目安に)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【取組内容①】</b></p> <p><b>【取組内容②】</b></p>	

次年度への改善点

【取組内容①】

【取組内容②】